

# デジタル時代の幕開け

デジタル技術に備えるASEAN諸国だが、課題も残る。

**A**SEAN(東南アジア諸国連合)では、域内発のライドシェアアプリ、インテリジェントな交通システム、最先端の建築技術、自動化されたエネルギー消費管理システムといったテクノロジーが地域全体に広がるイノベーションの波を加速させている。

その一例がインドネシアの活力あふれるデジタルエコシステムで、1,700社を超えるスタートアップ企業が活動している。これは新興企業の集まりとしては世界最大規模である。そのうちの1社がゴージェック(Go-Jek)で、ライドシェアアプリを出発点にモバイル決済などのデジタルサービスのプラットフォームへと事業を進化させてきた。一方、シンガポールを代表するシー(Sea)の時価総額は域内スタートアップ企業で最大であり、数十億ドルに達する。シーはオンラインゲームに始まって、モバイルマネーやモバイルショッピングへと手を広げている。

ASEANは若く、人口6億4,300万人のうち、30才未満が半数を超える。この地域の経済規模は2.8兆ドルに達する。そして、ASEAN加盟国10か国は経済統合の深化に向けて、足を前へと進めている。この地域はデジタルの最先端を走れるはずだが、状況はそう単純ではない。

ブルネイ・ダルサラームやマレーシア、シンガポールでは、ほとんどの人々がインターネット通信を利用できる環境にあるが、カンボジアやインドネシア、ラオス、ミャンマーでは70%を超える人々がインターネットに接続できない状態にあり、デジタル経済に十分に参加できていない。

高速ブロードバンド通信はこれ以上に希少である。中国や日本、韓国と比べると、ASEANはコストの高さが主な理由で後れをとっている。唯一の例外はシンガポールだ。

デジタル経済の育成や促進を左右する重要な優先項目は次の5つだ。

1. 誰もが手頃な価格でインターネットに接続できること
2. 事業環境が競争を促し、イノベーションを促進するものであること
3. デジタル化が進む未来の新しい需要や雇用にあった技能を教育制度によって労働者が習得できるようにすること
4. 機械による自動化で失業した人々の保護に必要な社会セーフティネットを強化すること
5. ASEAN諸国がテクノロジーを活用して金融の包摂性を改善し、一方で、フィンテックの台頭に伴うリスクを管理できるよう規制枠組みを適応させること

ASEAN地域をひとつの経済だとすると、その規模は世界で5番目に大きい。そして、何億人もの若者がデジタル革命への参加に熱心であることを踏まえると、今がデジタルデバイドをなくすために最善の時である。この地域の未来は、これにかかっている。FD

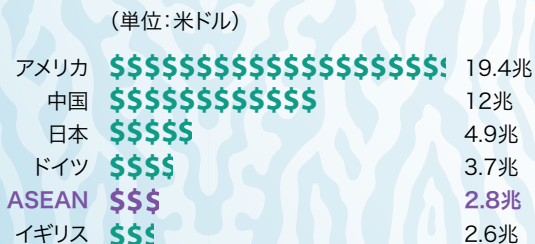
この記事はIMFコミュニケーション局広報官の**ジア・フェン**によって作成された。

## デジタル化の可能性

経済の大きさ、人口ボーナス、地域統合の進展など踏まえると、ASEANはデジタル化の可能性を大いに秘めている。

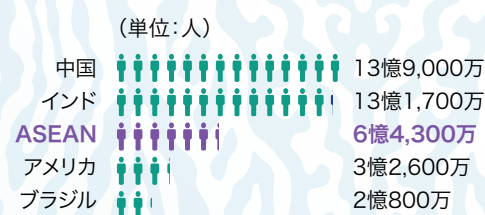
### 経済

ASEANがひとつの経済だったとすると、そのGDPは世界で**5番目**に大きい。



### 人口

ASEANの人口は世界**3位**の大きさである。30歳未満の割合が**50%を超える**。

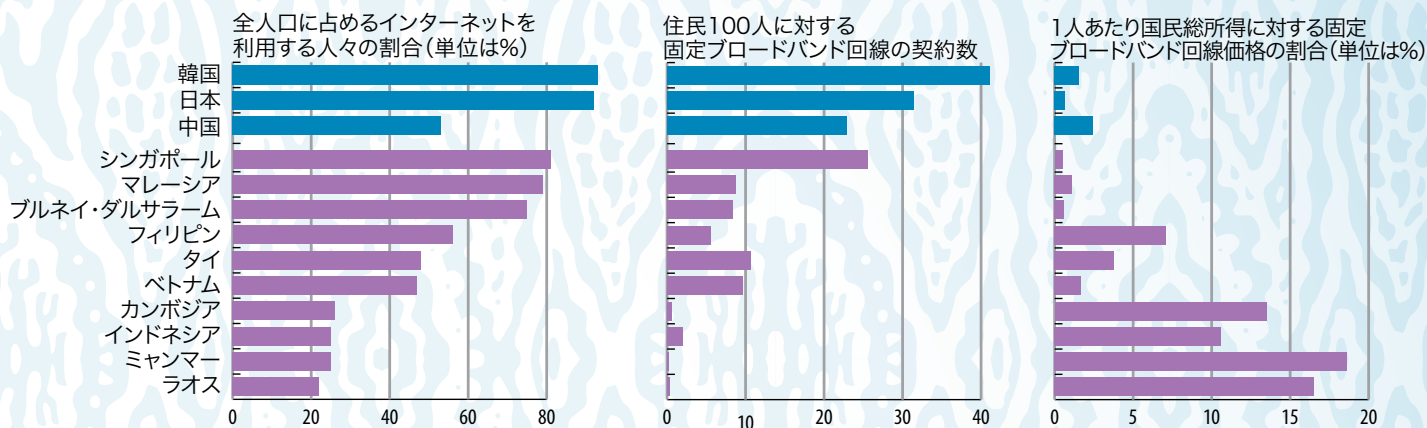


出典:IMF「世界経済見通し(WEO)」(2018年4月)

出典:IMF「世界経済見通し(WEO)」(2018年4月)

# デジタルデバイド

ASEANにはインターネットや高速通信の普及の面で、大きなデジタルデバイドが存在する。高速固定回線は多くの国々でひどく高額である。



出典：国際電気通信連合 Measuring the Information Society Report 2017

## ASEANがチャンスをつかむために必要なのは



誰もが手頃な価格でインターネットを使える環境



競争を促進できる活力ある事業環境



新しい需要にあった技能を労働者が習得できる新しい教育制度



自動化によって失業する労働者を守るためのセーフティネットの強化

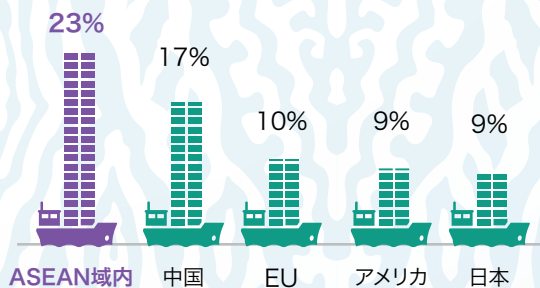


フィンテックに伴うリスクを管理するための金融規制枠組み

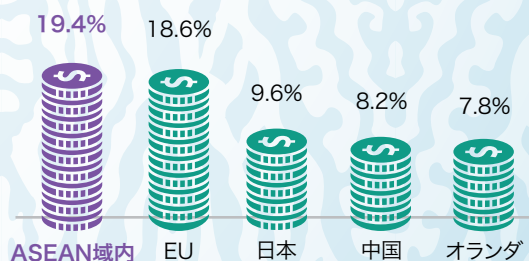
## 経済統合を加速させる

経済統合によって、ASEANのデジタルエコノミーが進展し、規模の経済の増大を実現させるための土台が生まれる。

ASEANの商品貿易相手国(地域) 国・地域別割合(2017年)



ASEANへの外国直接投資 投資元の国・地域別割合(2017年)



出典：ASEANStats